

へき地の子どもを対象にしたICT教室 ～コミュニケーションツールを活用した地域活性～



DATA

● 主な連携先・メンバー

岩手県葛巻町 教育委員会／
大学院生：山口美緒里・小森高也・木村剛隆／4 回生：原優花

● 活動地域

岩手県葛巻町

● 活動資金

関西大学文化・学術活動等奨励金

活動の目的

- 1 | 子どもと高齢者を含む地域の人々とのコミュニケーションの活性化
- 2 | へき地における情報活用能力の育成

連携にいたる経緯

岩手県の葛巻町出身者がこの実践のメンバーにいて、彼女は、現在のICT教室やICTに関する教育は、都市部で行われることが多いことを問題視している。葛巻町もその問題に直面している。したがって、彼女の地元との繋がりでICT教室を行うことになった。

活動内容

小学生から高校生までそれぞれの学校種に合わせてコースを設定し、基礎的なパソコンの操作方法、オフィスソフトの使用法、タブレット・スマートフォンの活用方法などICT活用能力を獲得させるような講座を開講した。また、保護者を対象として、基礎的なパソコン・タブレットの使い方の紹介と共に、子どもが事件に巻き込まれないように、メディアリテラシー獲得のためのコースも設けた。

さらに、参加者の中ではプログラミングに関心を持っている人が多かったため、「プログラミングでロボットを動かしてみよう」という活動も行った。プログラミングの講座では、「spero」と呼ばれる球体のロボットをビジュアルプログラミングでうごせたり、ドローンを飛ばしたりした。



活動の成果

- 1 | 参加者のICTに対する興味・関心の向上
- 2 | 参加者の情報活用能力の向上
- 3 | プログラミング・プログラミング教育に対する意識の向上

今後の課題・目標

- 1 | 高度な情報活用能力の育成
- 2 | 実施担当者のICT活用能力のスキルアップ
- 3 | 保護者との連携の強化

● 教員紹介



総合情報学部 教授 久保田 賢一(くぼた けんいち)

「学ぶことは生きること」をモットーに、学生が生き生きと活動することを通して社会貢献する学習環境のデザインを研究している。その方法として、教室の外に出て、地域の人たちと連携して活動をするプロジェクト型のアクティブラーニングを推進している。学生が主体的・自律的に活動するためには、上級生と下級生の連携、外部の人たちとの協働が欠かせない。国内だけではなく、海外の大学やNGOと協働して、現実社会の問題解決に取り組む。